

EARTH MANUAL PROJECT 展

開催報告書

2014.01.19

KII+O:

目次

- 01. 目次
- 02. 展覧会ステートメント
- 03-07. 展覧会開催概要
- 08. 会場図
- 09-12. 展示報告
- 13-25. 関連事業報告
- 26-27. 防災グッズセレクトショップ
- 28-34. 関係一覧
- 35-36. 制作物
- 37-38. 掲載実績

ステートメント

災害大国は、 防災大国に、なれる。

自然災害が、ふえている。

そのことから目をそむけずに、

希望をもって、防災を考える人がふえています。

「EARTH MANUAL PROJECT」は、世界各地のすぐれた

防災活動を集め、未来に活かすプロジェクト。

そこには、この問題と真摯に向き合う建築家やデザイナー、

アーティストたちがいます。彼らの自由な発想や、取り組む

姿勢、ピュアな想いを、もっと世界中に伝えたい。

そのための最初の一步が「EARTH MANUAL PROJECT 展」です。

神戸や東北をはじめ、インドネシア、タイ、フィリピンなど、

災害多発国のクリエイティビティあふれる防災活動を紹介。

それは展示だけでなく、見る人それぞれが自分の防災マニュアルを

つくっていくための展覧会。海外のクリエイターから話を聞いたり、

ノウハウを学べるワークショップも開催します。

防災の情報やアイデアを、国境を越えて共有し、連携し、

教えあうプロジェクトが、この秋、神戸から動き出します。

この星の防災は、想いを伝えあうことから始まる。

EARTH MANUAL PROJECT 展

展覧会開催概要

○名称	EARTH MANUAL PROJECT 展
○開催日時	2013年10月4日(金)-24日(木) 11:00-19:00 ※10/7(月)、10/15(火)、10/21(月)は休館
○会場	1F KIITO ホール、ギャラリー A
○主催	デザイン・クリエイティブセンター神戸
○共催	特定非営利活動法人プラス・アーツ
○助成	国際交流基金
○後援	朝日新聞社、NHK 神戸放送局、MBS、関西テレビ放送、Kiss FM KOBE、 神戸市教育委員会、神戸商工会議所、神戸新聞社、産経新聞社、 サンテレビジョン、日本経済新聞大阪本社、毎日新聞神戸支局、 読売新聞大阪本社、読売テレビ、ラジオ関西
○協賛	AIG グループ
○協力	アジア防災センター、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、 神戸市消防局、神戸芸術工科大学、神戸・三宮センター街、国際交流基金・ ジャカルタ日本文化センター / バンコク日本文化センター / マニラ日本文化センター、特定非営利活動法人エフエムわいわい、 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター、無印良品、 Thailand Creative and Design Center ※日・ASEAN 友好協力 40 周年記念事業 ※「KOBE デザインの日」記念イベント関連事業 ※「神戸ビエンナーレ 2013」協賛事業
○参加費	無料
○来場者数	5252 人
○関連事業参加者数	1971 人
○アドバイザー ボード	イカプトラ / Ikaputra (建築家 / ガジャマダ大学准教授 [インドネシア]) 大木聖子 (慶應義塾大学環境情報学部准教授) 岡本欣也 (コピーライター / オカキン) 佐野恵子 (キュレーター / AXIS ギャラリー) 曾我部昌史 (建築家 / みかんぐみ / 神奈川大学工学部教授) 寄藤文平 (アートディレクター / 文平銀座)
○出展者	デザイン・フォー・ディザスターズ、イカプトラ / IKC インドネシアチーム / BOKOMI バッドランチーム、藤浩志 / NPO 法人プラス・アーツ、寄藤文平、 レッドベアサバイバルキャンプクラブ、SPREAD、タイ・クリエイティブ・デザインセンター、 寛裕介、ダキーラ、アヤラ美術館、太刀川英輔、坂茂、古谷誠章、久富敏明、 ルースフラッド、槻橋修、一般社団法人アーキエイド、アルマ・キント、中田千彦、 友廣裕一、高津玉枝、岩切エミ

展覧会開催概要

- 趣 旨 「EARTH MANUAL PROJECT」は、世界中から優れた防災活動を集め、全世界のクリエイター・市民・NPO・行政・企業が共有・連携・相互学習できるプラットフォームを創設していくプロジェクトである。
- その端緒として、本展では神戸や東北をはじめ、自然災害が多発しているインドネシア、タイ、フィリピンなどの地域や国々の「+クリエイティブ」な取り組みや活動を厳選し、その背景、プロセス、取組み側の姿勢、成果と課題を紹介した。



各国の「+クリエイティブ」な視点を持つ防災・災害対応・復興支援に関する取り組みや活動をリサーチし、その中から特に優れた国内 14 活動、海外 9 活動を取り上げ、取材からわかったクリエイターたちの思いや活動のプロセス、成果や課題を詳しく紹介する展示を行った。同展全体のアートディレクション、及び活動を紹介するパネルのデザインはアートディレクターの寄藤文平氏、活動を端的に紹介するコピーはコピーライターの岡本欣也氏が担当した。木製のパレットと施設にある既存の什器を使用した会場展示計画は、建築家の曾我部昌史氏と長谷川明氏が担当した。

会場では、各プロジェクトの展示ブースに、活動の概要が書かれたマニュアル（紙面）を設置し、自由に持ち帰れるようにし、最後に集めたマニュアルを冊子にできる、製本スペースを設けた。また、会場内には食糧備蓄、機能性とデザイン性を兼ね備える防災関連商品、クリエイターが関わる復興支援商品などを販売する「防災グッズセレクトショップ」を併設した。

関連企画として、日本、インドネシア、タイ、フィリピンから招聘した展覧会に出展したクリエイターのレクチャーやトークイベント、活動のノウハウを体得できるワークショップ、「イザ！カエルキャラバン！ in KIITO」「世界の TAKIDASHI キッチン」などのイベントを開催するなど、複合的な体験ができる 13 のプログラムを実施した。

展覧会開催概要

○アートディレクション：寄藤文平（アートディレクター）



展覧会全体のアートディレクションを寄藤文平氏が担当。メインビジュアルは、今回のテーマである「自然災害」の様々な災害種をイラストで表現した。展示物からは見えてこない活動のプロセスを伝えるための手法として、パネルで詳しく解説した。また、来場者にマニュアルを持ち帰ってもらう仕組みを導入するなど、展覧会全体に関するディレクションを担当した。



メインビジュアルと、紹介している活動の背景となっている各国の自然災害情報を展示。



各プロジェクトのブースに置かれたマニュアル（紙面）は、自由に取りることができ、最後に表紙をつけてひもで綴じ、自分オリジナルのマニュアル冊子として持ち帰ることが可能。

展覧会開催概要

○コピーライト：岡本欣也（コピーライター）



展覧会タイトルや各活動の紹介パネルのコピーライトを岡本欣也氏が担当。「防災」という専門的な印象が強い内容を見る人が身近な事として捉えられるよう、クリエイターの気づきや創意工夫のポイントを、親しみやすい言葉で簡潔にまとめた。展示物だけでは伝えられない取材から得た情報を、パネルの文章でしっかりと伝えるため、全ての活動内容の紹介文に関してを監修を行った。



タイトルや展覧会の意図を伝えるステートメントは、展覧会のコンセプトを伝えるための軸となった。



活動の趣旨を端的に伝えるポディーコピーと、クリエイターの活動内容のポイントとなるキーワードが含まれた見出しは、会場に並ぶ23の活動の一つ一つ見ていく時の動機づけの言葉となった。

展覧会開催概要

○会場構成：曾我部昌史（建築家）



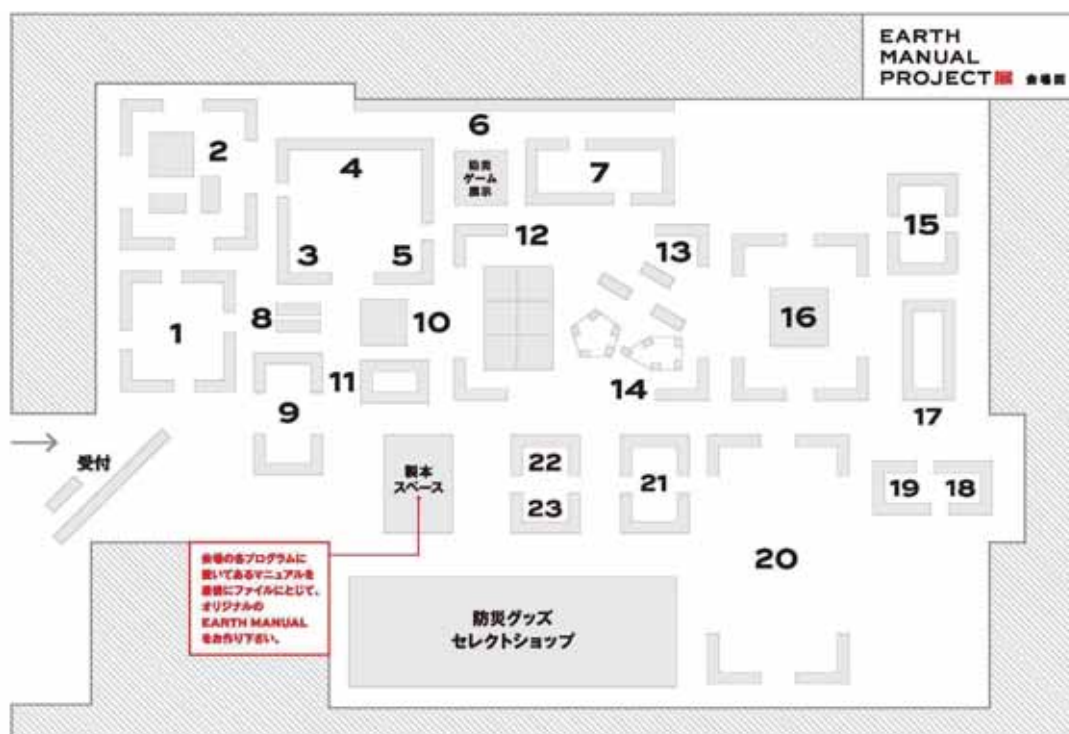
展覧会全体の会場構成を曾我部昌史氏と長谷川明氏が担当。展覧会のために新たに什器を制作するのではなく、既存のものを活用した会場計画を行った。限られたもので工夫し、生き抜く力が必要になる「防災」というテーマに沿うよう、木製のパレットと展示会場の備品である什器や身の回りにあるものを組み合わせることで、それぞれの展示に適した空間をつくりだした。



荷物を運ぶ際に使用される木製のパレットを基本素材とし、展示台の脚には椅子や段ボール箱を活用し、展示物に適した什器の高さをつくりだした。



会場図



1. THAI THAI DAIJOBUI- 日用品を活用した洪水対策術 -
2. 地域で取り組む防災教育 世界に飛び出す日本の「イザ！カエルキャラバン！」と防災福祉コミュニティモデル
3. イザ！カエルキャラバン！
4. 地震 ITSUMO プロジェクト
5. レッドベアサバイバルキャンプ
6. 阪神・淡路大震災＋クリエイティブタイムラインマッピングプロジェクト
7. Design for Flood
8. issue+design
9. Climate School Project
10. The Filipino Spirits is Waterproof
11. OLIVE プロジェクト
12. Paper Partition System4
13. 田野畑村テンポラリー・ブース
14. FASTBOX
15. Roo su Flood- アニメーションを活用した洪水対策知識の啓発プロジェクト -
16. 失われた街 模型復元プロジェクト
17. 牡鹿半島支援活動
18. コアハウス - 拡張する震災後の住まい -
19. 手工業による震災地域復興 - インドネシア・コタゲデ歴史地区 -
20. FLOATING WONBS
21. A Book for Our Future, 3 1 1
22. OCICA
23. EAST LOOP

展示報告



THAI THAI DAIJOBU!- 日常品を活用した洪水対策術 -
デザイン・フォー・ディザスターズ
[タイ]



地域で取り組む防災教育
世界に飛び出す日本の「イザ!カエルキャラバン!」と
防災福祉コミュニティモデル
イカブトラ/インドネシアチーム/BOKOMI パッドランチーム
[インドネシア]



イザ!カエルキャラバン!
藤浩志/NPO 法人プラス・アーツ
[日本]



地震 ITSUMO プロジェクト
寄藤文平/NPO 法人プラス・アーツ
[日本]



レッドベアサバイバルキャンプ
NPO 法人プラス・アーツ/
レッドベアサバイバルキャンプクラブ
[日本]



**阪神・淡路大震災+クリエイティブ
タイムラインマッピングプロジェクト**
SPREAD/
デザイン・クリエイティブセンター神戸+ボランティア 36 名
[日本]

展示報告



Design for Flood

タイ・クリエイティブ・デザインセンター
[タイ]



issue+design

寛裕介
[日本]



Climate School Project

ダキーラ
[フィリピン]



The Filipino Spirits is Waterproof

アヤラ美術館
[フィリピン]



OLIVE プロジェクト

太刀川英輔
[日本]



Paper Partition System4

坂茂
[日本]

展示報告



田野畑村テンポラリー・ブース

古谷誠章
[日本]



FASTBOX

久富敏明
[日本]



Roo su Flood

- アニメーションを活用した洪水対策知識の啓発プロジェクト -
ルースフラッド
[タイ]



失われた街 模型復元プロジェクト

槻橋修
[日本]



社鹿半島支援活動

一般社団法人アーキエイド
[日本]



コアハウス - 拡張する震災後の住まい -

イカブトラ
[インドネシア]

展示報告



手工業による震災地域復興 - インドネシア・コタゲデ歴史地区 -
イカブトラと他 6 名のクリエイター
[インドネシア]



FLOATING WONBS
アルマ・キント
[フィリピン]



A Book for Our Future, 3 1 1
中田千彦
[日本]



OCICA
友廣裕一 / 太刀川英輔
[日本]



EAST LOOP
高津玉枝 / 岩切エミ
[日本]



防災ゲーム展示
とっさのひとこと防災編、防災すごろくゲーム「GURAGURA TOWN」、クロスロード、シャッフル、なまずの学校、ぼうさいダック、3.11シンサイカルタ、紙芝居「めざせ！キッズ防災博士！～家でのそなえ編～」

関連事業報告

○名 称	EARTH MANUAL PROJECT 展 オープニング・レセプション
○開催日時	2013年10月4日(金) 19:30 - 21:30
○会 場	1F ギャラリー B
○参加費	有料 1,000円
○参加者数	116人
○フ ード	堀田 裕介(料理研究家)
○趣 旨	展示会に出展いただいた国内外のクリエイターや関係者を迎えた交流の場を設けることで、市民を含めた来場者により深い理解と興味を持っていただき、本展に関わっていただく契機となった。

オープン初日の展示会会場を背景にオープニング・レセプションを開催し、料理研究家である foodscape! の堀田氏が本展のロゴを模してデザインしたフードとオリジナルドリンクを提供した。

はじめに、本展キュレーターの副センター長・永田、神戸市齊木統括監、センター長・芹沢より、参加者へ歓迎の意を表した挨拶を行い、次に、本展のために来日した海外の出演作家4名が展示内容や実施プログラムに関して簡単に紹介を行った。最後に、本展のアドバイザーボードメンバーに、それぞれ本展への具体的な関わりと本プロジェクトの今後の展開についてコメントを頂いた。以上のプログラムを通じて、一般参加者にとっては本展に関するより深い理解と興味を醸成する場となり、また本展の関係者たちの交流の場にもなった。



関連事業報告

- 名 称 世界の TAKIDASHI キッチン
- 開催日時 2013年10月5日(土)・6日(日) 11:00 - 16:00
- 会 場 1F ギャラリーB、屋外スペース
- 参加費 無料
- 参加者数 999人
- 協 力 特定非営利活動法人エフエムわいわい
- 出 店 サ・マーシュ(パン)、パティスリーモンプリュ(洋菓子店)、
Liang You 良友(中華料理店)、鳥忠(鶏肉店)、韓八商店(韓国料理・惣菜店)、
ロットディー(タイ料理)、ハーロン(ベトナム料理店)、
アールティー(インド料理店)
- 趣 旨 「炊き出し」に代表される災害時の食に関する知識を広め、体験していただくことを目的とする。

東日本大震災時における被災地での炊き出しの記録をまとめた宮城県山元町の取り組みをはじめ、関係団体への取材や国内外の被災者へのアンケート、既存文献から炊き出しのルールをまとめ、それをもとに出店者が考案したメニューを販売、そのレシピを来場者に配布した。アレルギーや宗教上の理由がある人たちへの注意喚起として、各メニューに使用した食材をオリジナルのピクトグラムで表現し、掲示を行った。また、水が貴重な被災時に役立つ紙の食器づくりの体験ブースを設けた。



関連事業報告

- 名 称 ゲームで社会課題に挑む -Save The World With GAME-
- 開催日時 2013年10月5日(土) 19:00 - 21:00
- 会 場 3F 303
- 参加費 無料
- 参加者数 27人
- 講 師 ラッティゴーン・ウッティゴーン (ゲームデザイナー)
- 趣 旨 子どもが興味を持ち自主的に学ぶことができる社会課題をテーマにしたゲームの事例と開発手法を参加者が学び、さらに、講師が開発したゲームを参加者が実際に体験できる機会を設ける。

ウッティゴーン氏が、社会課題をテーマとしたゲーム開発に携わるまでの自身の経歴を、自作のムービーを用いて紹介。タイの教育玩具メーカーでゲーム開発のノウハウを学んだ後、自国の社会課題解決の本質は「人そのものを変えることである」という考えに至り、次の社会を担う子どもたちが正しい考え方を身に付けるゲームを開発するため、会社を立ち上げ、ゲームデザイナーとして国内外で活躍している。

開発したゲームを世の中に広めていくことが重要であり、賛同してくれたクライアントの想いを汲みながら、子どもにとって難しくなく、遊びやすい仕組みにするため、何度も試作を繰り返し、より普及するゲームにしていく開発のプロセスと事例を参加者に伝えた。会場には、ウッティゴーン氏が開発したゲームを含む、おすすめのゲームが並べられ、一つ一つ解説を交えながら、ゲームの遊び方を詳しく紹介した。



関連事業報告

- 名 称 アートによる心のケア“heARTS”（ヒアーツ）担い手養成ワークショップ
- 開催日時 2013年10月5日（土）13:00－19:30、6日（日）14:00－16:00
- 会 場 3F 301
- 参加費 無料
- 参加者数 57人
- 講 師 アルマ・キント（アーティスト）
- 趣 旨 アート制作を通して、虐待や自然災害で受けたトラウマに向き合い、生きる力を引き出す取り組みを続けるアルマ・キント氏の手法を学び実践するワークショップを行う。
- ※ “heARTS”：講師が提唱する、アートを通じたトラウマヒーリングのトレーニングワークショップの手法。「healing through the ARTS」の略。

まず初めに、参加者が自身の気持ちを開放することを促すため、2つのアイスブレイクゲームを行った。そして続けて3つのワークを行った。一つ目は「ドット コネクト」。画用紙に何も考えず点を打ち、点同士を繋ぎその人自身を表す絵を描いた。二つ目のワークでは、自身の力の源や大切にしていることを表現する「パワーカード」を、紙のコラージュで制作した。完成後は自身の「パワー」を他の人に分け与える象徴的な行為として、他の参加者とカードを贈り合った。そして最後のワークではグループに分かれ、共同作業でパッチワークの旗を作成した。一日の制作の集大成として、参加者の「パワー」が集まった作品となった。成果物は本展会場の講師の作品に取り付けられた。全てのワークを通じて、参加者は個々人が持つ生きる力を引き出す講師の手法を学び、体験した。



関連事業報告

- 名 称 フィリピンのアーティスト・アルマさんによる
アートで親子コミュニケーション ワークショップ
- 開催日時 2013年10月6日(日) 14:00 - 16:00
- 会 場 3F 301
- 参加費 無料
- 参加者数 32人
- 講 師 アルマ・キント(アーティスト)
- 趣 旨 親子が布や紙を使って表現することを通してコミュニケーションを深め、互いをより深く理解する手法を学ぶ。そのために「アートによる心のケア “heARTS” (ヒアーツ) 担い手養成ワークショップ」参加者が、前日に講師から学んだことをファシリテーターとして実践する機会とする。

講座の始めに本展の会場で講師の作品を見学し、作品解説を聞いて制作の意図を理解する。続いて行われたアイスブレイクのゲームの後に、「わたしの得意なこと、好きなこと」というテーマで、自身の力の源や大切にしていることを表現する「パワーカード」を、親子と「ヒアーツ」ワークショップ参加者がチームになり制作した。完成後は輪になって座り、感想を話し合った。参加者は制作を通して気持ちを素直に表現することで、親子や周囲の参加者とコミュニケーションを深めた。

「ヒアーツ」ワークショップ参加者は、自身の制作に関する体験も含めての作品解説、またアイスブレイクのゲーム進行や親子とのチームでの制作を主導し、講師から学んだ手法を実践する機会となった。



関連事業報告

- 名 称 “遊びながら学ぶ” 地震ゲームを作るデザインワークショップ
- 開催日時 2013年10月8日(火) - 11日(金) 19:00 - 22:00
2013年10月12日(土) - 13日(日) 10:00-19:00
- 会 場 3F 301
- 参加費 無料
- 参加者数 128人
- 講 師 ラッティゴーン・ウッティゴーン (ゲームデザイナー)
- ゲ ス ト 吉川肇子 ※10/12・13のみ
- 趣 旨 世界各地でゲーム作りワークショップを実施してきたラッティゴーン氏を講師に、「地震」、「津波」をテーマにしたゲーム開発をワークショップ形式で実施し、ゲームの構造やより楽しいゲームを作るための手法を実践を通して習得する。

ウッティゴーン氏のゲーム開発の主な手法は、登場人物と話の流れを設定してから、ゲームとしての楽しさや仕組みのアイデアを盛り込んでいく形である。本ワークショップではその手法を踏襲し、参加者たちが4つのグループに分かれ、ゲームのストーリーを制作し、その後に紙やカラーペンを使って試作を繰り返し、進行やルールを確認、グループで試行と改良を重ね完成させた。最終日には講師と防災ゲームの第一人者、吉川肇子氏による講評を行った。本ワークショップで開発したゲームのデモ版は、同展覧会会期中に行われた「防災ゲーム大会」で実施され、子どもたちに体験してもらうことで、遊びやすさやテーマがしっかりと伝わっているかどうかを検証した。



関連事業報告

- 名 称 レッツ！サバイバルー「アイデアと工夫」というデザインで、生きる世界。ー
- 開催日時 2013年10月11日（金）19:00－21:30
- 会 場 3F 303
- 参加費 無料
- 参加者数 46人
- 講 師 ウィパーウィー・クナーウィチャャーノン、永田 宏和
- 趣 旨 デザイン・フォー・ディザスターズ（タイ）のウィパーウィー・クナーウィチャャーノン氏と永田宏和氏がそれぞれ展開している防災教育、防災技術普及分野への活動を紹介し、課題や展望について意見交換をすることで、両国の防災教育をテーマとしたプラットフォーム形成につなげる。

デザイン・フォー・ディザスターズが行う、災害時に生き延びるためのクリエイティブな視点や知識を持ってもらうための活動、日用品を用いた浮き具の実験、SURVIVE! デザインコンペティションについて、クナーウィチャャーノン氏がスライドを用いて解説した。

次に、永田氏がレッドベア・サバイバルキャンプを例に、防災教育プログラムの企画と開発、学ぶ場作り、市民への普及についてスライドを用いて解説した。

その後の意見交換では、タイにおいてデザイン・フォー・ディザスターズの防災教育プログラムを、レッドベア・サバイバルキャンプのシステムを用いて開催、市民に普及する計画が相互から発案され、タイにおける新しい防災教育プロジェクトの開発につながった。



関連事業報告

- 名 称 レッツ！サバイバル ワークショップ
- 開催日時 2013年10月12日（土）・13日（日）13:00 – 16:00
- 会 場 1F ギャラリー B
- 参加費 無料
- 参加者数 120人
- 協 力 ウィバーウィー・クナーウィチャャーノン、
京都造形芸術大学大学院坂茂研究室、
早稲田大学理工学術院建築学科古谷誠章研究室、
神戸芸術工科大学基礎教育センター久富敏明研究室＋学生有志、
レッドベアサバイバルキャンプクラブ
- 趣 旨 身の回りの物を活用して、災害時に生き残るための技や知識、避難所での生活空間の間仕切り方などを、ワークショップでの実践から習得することを目的とする。

災害時に身の回りの物を活用し、生き残るための知識や技を習得するワークショップを開催した。Tシャツとペットボトルを使用した浮具づくりなどの洪水の際に身を守る方法や、避難する際の足の保護道具、ロープワーク、紙食器づくり、3つのタイプの避難所の間仕切り方などを講師の指導の下、参加者たちが体験した。スタンプラリー方式を導入し、4つのプログラムの修了者にオリジナル缶バッジをプレゼントすることで、複数プログラムの体験を促すよう工夫した。



関連事業報告

- 名 称 防災ゲーム大会
- 開催日時 2013年10月14日(月・祝) 13:00 - 16:00
- 会 場 1F ギャラリーB
- 参加費 無料
- 参加者数 102人
- 協 力 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
「遊びながら学ぶ」地震ゲームを作るデザインワークショップ」参加者
- 趣 旨 本展で紹介した防災ゲームや、「遊びながら学ぶ」地震ゲームを作るデザインワークショップ」で開発された新しい防災ゲームの体験イベントを開催し、参加者が自然災害や防災についての知識や技術を、ゲームを通して楽しみながら習得できる場とする。

ラッティゴーン・ウッティゴーン氏が講師を務めた「遊びながら学ぶ」地震ゲームを作るデザインワークショップ」で参加者とともに開発した地震や津波をテーマとした4つのゲームと、日本で生まれた7つの防災ゲームの体験イベントを開催した。同デザインワークショップのゲームブースでは、開発に携わった参加者がゲームの説明や遊んでもらう際のサポートを行い、実際に遊んでもらうことで自分たちが開発したゲームの遊びやすさや学びの達成度について検証した。プログラムの体験を促す仕組みとしてスタンプラリーを実施し、4プログラム以上の体験者にはオリジナル缶バッジをプレゼントした。

【実施した防災ゲーム】

「イツモ村」、「ひなんでGO! GO!」、「いそげはやちゃん」、「森のシェルター」 ※左記、デザインワークショップで開発した新しい防災ゲーム
他、「東日本大震災教訓教材『とっさのひとこと防災編』」、「ぼうさいダック」、「なまずの学校」、「GURAGURA TOWN」、「3.11 シンサイカルタ」、「防災カードゲーム シャッフル」、「クロスロード」



関連事業報告

- 名 称 「コミュニティ・アーキテクト イカプトラ」三夜連続レクチャー
第一夜：住み続けながら拡張する復興住宅「コアハウス」
- 開催日時 2013年10月16日（水） 19:00-21:30
- 会 場 3F 303
- 参加費 無料
- 参加者数 58人
- 講 師 イカプトラ（建築家）、曾我部 昌史（建築家）
- 趣 旨 インドネシアで災害へのクリエイティブなアプローチを続ける建築家・イカプトラ氏は、建築家という枠組みを超えたコミュニティ・アーキテクトとして多方面で活躍している。災害直後の被災者の経済支援、新しい復興住宅モデルの開発、そして子どもたちを対象とした防災教育活動と、多岐にわたる氏の活動を、三夜にわたり紹介した。一夜目は、住み続けながら拡張する復興住宅「コアハウス」を取り上げ、ナビゲーターの曾我部氏とともにその意義と日本での展開の可能性について検討する。

「コアハウス」とは、災害で住宅が倒壊した被災者に対し、核となる必要最小限の住宅を作り、その居住者が徐々に建て増していくことで、住宅と地域を復興させる考え方である。イカプトラ氏が、インドネシアのカソンガン村とケブンアグン村での2つの取り組み事例を紹介した。被災後もその土地に住み続けることができ、被災者の収入や必要とする住宅の広さといった、個々のニーズによって自由自在に自力で住宅を拡張できるコアハウスの利点が示された。次に、建築家・曾我部氏より、東日本大震災の被災地におけるコアハウスの事例が紹介された。最後に、インドネシアと日本の事例をもとにディスカッションを行い、コアハウスを日本で普及させるための法的、経済的な課題と、コミュニティを持続させることができるこのシステムの日本での可能性が示された。



関連事業報告

- 名 称 「コミュニティ・アーキテクト イカプトラ」三夜連続レクチャー
第二夜：クリエイターは復興期の被災地とどのように関わっていくべきか
- 開催日時 2013年10月17日（木）19:00 – 21:30
- 会 場 3F 303
- 参加費 無料
- 参加者数 35人
- 講 師 イカプトラ（建築家）、高津 玉枝（株式会社福市代表取締役）
- 趣 旨 インドネシアで災害へのクリエイティブなアプローチを続ける建築家・イカプトラ氏の活動を、三夜にわたり紹介するレクチャーシリーズの二夜目。クリエイターと復興期の被災地との関わり方について取り上げ、クリエイターが被災者の生活支援や経済支援に取り組む際の心構えや留意点を明かにする。

2006年のジャワ島中部地震で被災した、インドネシアのコタゲデ村において、イカプトラ氏が行った地域産業復興支援の取り組みを紹介した。同地で被災によって職を失った銀細工職人を支援するため、企業やデザイナー、デザイン系の学生を巻き込み、マーケットの再建や技術・製品デザインの向上に努めた事例が詳しく報告された。また、高津氏は東日本大震災の被災地で手仕事を創り、商品の制作者に売上を還元する「EAST LOOP プロジェクト」を立ち上げた経緯と現状、課題について説明した。その後のディスカッションにおいて、2つのプロジェクトの共通点として、綿密なリサーチを行い状況を把握し、適切な支援を行うこと、プロジェクトの継続を見据えて支援期間を設定すること、専門性を活かして最大限の効果을あげていることが挙げられ、今後のクリエイターによる被災者生活支援の指針を示した。



関連事業報告

- 名 称 「コミュニティ・アーキテクト イカプトラ」三夜連続レクチャー
第三夜：国境を越えて、BOSAI を地域に根付かせる試み
- 開催日時 2013年10月18日（金）19:00 – 21:30
- 会 場 3F 303
- 参加費 無料
- 参加者数 50人
- 講 師 イカプトラ（建築家）、永田 宏和（副センター長）
- 趣 旨 インドネシアで災害へのクリエイティブなアプローチを続ける建築家・イカプトラ氏の活動を、三夜にわたり紹介するレクチャーシリーズの三夜目。防災啓発イベントの日本とインドネシアにおける広がりについて取り上げ、今後の防災教育における重要なポイントを整理する。

永田氏が、神戸発のファミリー向け防災訓練プログラム「イザ！カエルキャラバン！」の概要紹介と普及のための取り組みについて解説した。次にイカプトラ氏が、「イザ！カエルキャラバン！」のインドネシアでの展開、普及の経緯を紹介、地域のNGOと小学校教員を巻き込み運営を行うこと、政府の支援を得ること、子どもたちに防災を教える担い手として教員をトレーニングしたことなどを詳しく説明した。また、神戸の防災福祉コミュニティ（住民により消火や救助活動を行う自主防災組織）をBOKOMIとしてインドネシアに紹介し、同地で根付いてきていることも合わせて紹介された。その後のディスカッションでは、防災教育プログラムをその他の地域に根付かせ発展させるために地域の中に担い手を育成することの重要性や、広い視野を持って地域の様々な団体・個人との協働することの重要性などが示された。



関連事業報告

- 名 称 イザ！カエルキャラバン！ in KIITO
- 開催日時 2013年10月19日（土）・20日（日）13:00 – 16:00
- 会 場 1F ギャラリー B、屋外スペース
- 参加費 無料
- 参加者数 237人
- 協 力 イカブトラ、BOKOMI バッドランチーム、神戸市消防局、
レッドベアサバイバルキャンプクラブ、AIG グループ
- 趣 旨 災害時に役立つ防災の知識や技を、体験プログラムを通して楽しみながら学び、身に付けることができるイベントを開催する。また、同イベントにおいて、共に自国で展開しているインドネシア、日本のチームが協働することで、学び合う場を創出する。

防災を楽しく学ぶ、「イザ！カエルキャラバン！ in KIITO」を開催した。家族でプログラムに参加し、防災に関する知識や技を学ぶことで、自然災害や防災について家族で考える機会となった。また、インドネシアの同プログラム普及と防災教育に関わるメンバーが、バケツの水を使って的を狙う消火活動や、災害について考えるすごろくゲームなど、現地で開発されたオリジナルプログラムを実施し、それぞれのプログラムを学び合う場となった。参加した子どもたちは繰り返し防災教育プログラムを体験することで、防災の知恵や技をしっかりと身に付けることができた。



防災グッズセレクトショップ

- 名称 防災グッズセレクトショップ
- 開催日時 2013年10月4日(金)-24日(木) 11:00-19:00
※10/7(月)、10/15(火)、10/21(月)は休館
- 会場 1F ギャラリーA
- 参加費 無料
- 趣旨 「震災発生時」「震災後」「復興期」という3つの期間で構成した自宅避難のための非常食、機能性とデザイン性を兼ね備えた防災関連商品、クリエイターが関わる復興支援商品を販売し、家庭での防災対策や被災地復興支援の実践の契機とする。
- セレクトチーム 高橋 孝治（無印良品）、平林 英二（人と防災未来センター）、
竹中 邦明（神戸市消防局）、相良 二郎（神戸芸術工科大学 教授）、
中野 元太、河田 のどか（NPO 法人さくらネット）、
岩根 裕子（NPO 法人プラス・アーツ）、
永田 宏和（デザイン・クリエイティブセンター神戸）、
杉山 高志（京都大学）、明田 春来（神戸芸術工科大学）、
中本 優美（神戸芸術工科大学）、Ali Khajuee（神戸芸術工科大学）、
大島 淳一郎（神戸芸術工科大学）、中野 大（神戸芸術工科大学）、
中村 知保（神戸芸術工科大学）、長谷川 杏奈（神戸芸術工科大学）

災害に関する3つの期間を設定し、期間ごとに選定した「防災グッズセレクトショップ」を会場内に開設した。

「いつものもしも2013」では、震災発生時を想定し、無印良品が取り組む「日常からの防災」の提案骨子である「食のローリングストックを利用した一週間備蓄の方法」「身につける防災グッズの再点検」の2つのテーマで選定した商品を紹介・販売した。

「これで決まり！厳選防災グッズ」では、震災後の自宅避難を想定し、本展のために結成されたセレクトチームが厳選した10のアイテム（エマージェンシーブランケット、携帯トイレ、ヘルメット、ラジオ、救急用品、携帯充電器、手袋、LEDランタン、非常食、衛生用品）を紹介・販売した。

「東北・海外被災地支援アイテム」では、復興期においてクリエイターが被災者やその支援者たちと協働で制作した被災地支援アイテムを紹介、販売した。

また、商品の販売とともに、自宅避難時の備蓄量を把握してもらうために、4人家族の1週間の家庭用備蓄を想定した、水、カセットボンベ、非常食、携帯トイレなどを実物展示した。

防災グッズセレクトショップ



関係一覧



デザイン・フォー・ディザスターズ

2010年1月設立。デザイン・フォー・ディザスターズ（Design for Disasters : D4D）は、若手デザイナー、アーティスト、学者から成る。メンバーだけでなく、一般の人々もアイデアを共有し、いつ何時都市を襲うかもしれない異常気象による災害に備えて、長期的な解決策を考え、参加する。メンバーは義務を伴わず、専門性やそれぞれのスケジュールにより、どのプロジェクトにも関わる。そのため、プロジェクトごとに常にメンバーが入れ替わる。

資本主義というよりもむしろ意図主義の枠も超えた非営利のネットワークであるD4Dは、研究ネットワークとして、情報や知識を共有するプラットフォームの構築を目指している。同時にデザインと創造的なアプローチで、公平かつ新たなアイデアを柔軟に取り入れる考え方を人々に広める。またタイだけでなく、世界の平和と安全、回復力、持続可能な変容を促進するため、行政、民間セクター、団体間の協働を推進している。

- ・本展出展



イカブトラ（建築家、ガジャマダ大学准教授）

1962年インドネシア生まれ。工学博士（大阪大学）。ガジャマダ大学建築計画学部 准教授。1995年の阪神・淡路大震災（神戸）、2006年ジャワ中部地震、2010年メラピ山噴火（いずれもジョグジャカルタ）の被災地に居合わせ、その復興支援に尽力。震災復興住宅の開発、職人への支援を通じた地域復興、防災プログラムの普及など、被災後の困窮なかで必死に立ち上がろうと努力する被災者の感情に寄り添い勇気づける活動を多数展開。

- ・本展アドバイザーメンバー
- ・本展出展
- ・「コミュニティ・アーキテクト イカブトラ」三夜連続レクチャー 講師
- ・「イザ！カエルキャラバン！ in KIITO」協力



藤浩志（美術作家）

京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、バプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室を設立。「ヤセ犬の散歩」「お米のカエル物語」「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「藤島八十郎をつくる」等、各地で対話と地域実験の場を作る美術類のデモンストレーションを実践。

- ・本展出展



NPO法人プラス・アーツ

NPO 法人プラス・アーツ

教育、まちづくり、防災、国際協力などの社会の既存の分野に対して、アートの発想やアーティストの持つ既成概念にとらわれない創造力を導入し、それらの課題や問題を解消、再活性化することを目的とした特定非営利活動法人。デザイン・クリエイティブセンター神戸副センター長の永田宏和が理事長を務める。

- ・本展共催団体
- ・本展出展

関係一覧



寄藤文平 (アートディレクター)

1973年、長野県生まれ。広告のアートディレクションとブックデザインを中心に、連載の挿画から著作まで、幅広く活動中。主な仕事に、JTのマナー広告「大人たばこ養成講座」「マナーの気づき」、著書に『元素生活』（化学同人）、『ラクガキ・マスター』（美術出版社）など。

- ・本展アドバイザーメンバー
- ・本展出展



レッドベアサバイバルキャンプクラブ

NPO 法人プラス・アーツが中心となり、キャンプを通じて、災害時に生き抜く「たくましさ」「2つのソウゾウリョク（創造力と想像力）」を養うプログラムを開発・実施しているメンバー。

- ・本展出展
- ・「レッツ！サバイバル ワークショップ」協力



SPREAD

2004年に小林弘和と山田春奈によるクリエイティブユニット。あらゆる記憶を取り入れ、その記憶から境界を越えて『SPREAD= 広がる』クリエイションを行う。2005年より、生活の記録をストライプ模様で表現するアートワーク「Life Stripe」を展開。主なデザインの仕事に、「相対性理論」「やくしまるえつこ」「flumpool」CDジャケット、「CLINIQUE」広告、ストールブランド「ITO」、「萩原精肉店」VIなど。

主な受賞歴に、D & AD 銀賞、red dot design 賞、iF design 賞、Pentawards 銀賞 / 銅賞、アジアデザイン賞銅賞、グッドデザイン賞、日本パッケージデザイン大賞銅賞、読売広告大賞など。ADC、TDC、JAGDA、APD 入選。

- ・本展出展



タイ・クリエイティブ・デザインセンター

2005年11月15日に開館したタイ・クリエイティブ・デザインセンター (TCDC) は、タイ首相府の知識開発管理事務所が管轄する5部門の1つ。タイにおけるデザインとクリエイティブのトップレベルの学習資料センターとして、展示会、講演、ワークショップから研究設備まで、デザインに関するあらゆる情報を提供している。2008年には、タイ経済を支える鍵となるクリエイティブな起業家を育成するため、創造経済の発展を後押し。また、全国14のミニTCDCを通じてナレッジマネジメントのネットワークを築いており、2013年には、クリエイティブなアイデアを交換し、絶えず変化する世界的な需要を満たせるよう地域の起業家を支援するセンターとして、TCDC チエンマイを開設した。

- ・本展出展



寛裕介 (issue + design 代表)

一橋大学社会学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了（工学博士）。東京大学大学院在学中より、社会課題をデザインで解決するソーシャルデザイン領域の研究、実践に取り組む。2008年にissue+design設立。著書に『ソーシャルデザインハンドブック』、共著書に、『地域を変えるデザイン』『震災のためにデザインは何が可能か』他。

- ・本展出展

関係一覧



ダキーラ

社会正義の実現のため活動を行うフィリピンの集団。アーティスト、学生、若手専門家、個人が協働して、クリエイティブなアイデアで社会意識を醸成し、よりよい社会を築くための活動を行う。心に宿る善なるものは、行動に表れるという信念の下、力強いメッセージを放つアートのかや、フィリピン人の心を豊かにする創造的なものの価値、集団の力を活かした活動を展開する。特に、全ての活動において、奉仕することに重きを置いている。自ら関わりリスクを負うことで、はじめてよりよい社会を創り出す機会を得る。そして、それは国家が多くの困難に直面した時に、人々のちよつとした勇気ある行動や、自らを省みない振る舞いに繋がり、大きな意味を持つことになる。

・本展出展



アヤラ美術館

現代美術やフィリピン固有の歴史の展示を行う美術館として、情熱とエネルギーに満ち溢れるフィリピン、マニラ首都圏のビジネスの中心地マカティに位置する。主なコレクションとして考古学的工芸品を所蔵する。特に展示「黄金の祖先たち：植民地時代以前のフィリピンの至宝」は、過去の有力者や伝統工芸技術の文化をたどることが出来る。他にも「フィリピン・ジオラマ・エクスペリエンス」では、フィリピンの歴史上の重要な出来事を、ハンドクラフトの模型 60 点で再現。その幾つかは Google アートプロジェクトでも取り上げられている。歴史、現代美術、音楽、デザインに関する常設プログラムを実施し、企画展示、レクチャー、アーティスト/キュレーターズトーク、ワークショップ、パフォーマンスも開催する。

・本展出展



太刀川英輔（デザイナー、NOSIGNER 代表）

2006 年「見えない物をつくる職業」という意味を持つデザイン事務所 NOSIGNER を設立。家具、プロダクト、地場産業の活性化、若手クリエイターのプロデュースなど、多分野のデザインを通じて社会を変える活動を行う。東日本大震災被災地支援プロジェクト「OLIVE PROJECT」代表。PENTAWARDS PLATINUM AWARD 最優秀賞、DESIGN FOR ASIA AWARD 大賞他受賞。

・本展出展



坂 茂（建築家、京都造形芸術大学教授）

建築家、京都造形芸術大学教授。1957 年東京生まれ。クーパー・ユニオン建築学部を卒業。82 年、磯崎新アトリエに勤務。85 年、坂茂建築設計を設立。95 年から国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）コンサルタント、同時に災害支援活動団体 ボランティア・アーキテクト・ネットワーク（VAN）設立。

主な作品に「ハノーバー国際博覧会日本館」、「ポンピドー・センター・メス」などがある。

・本展出展

・「レッツ！サバイバル ワークショップ」協力



古谷 誠章（建築家、早稲田大学教授）

1955 年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院博士後期課程修了。早稲田大学助手、近畿大学工学部講師を経て、1994 年に早稲田大学助教授に就任。1997 年より現職（教授）。1986 年から文化庁建築家芸術家在外研究員としてスイスの建築家マリオ・ボッタの事務所に在籍。1994 年に八木佐千子と共同してスタジオナスカ（現 NASCA）を設立。日本建築学会作品選受賞多数受賞。2007 年に「茅野市民館」で日本建築学会賞作品賞、日本建築学会作品選奨、日本建築家協会賞、BCS 賞などを受賞、2011 年に日本芸術院賞受賞。早稲田大学古谷研究室の田野畑村支援活動の詳細：<http://www.arch.waseda.ac.jp/593/>

・本展出展

・「レッツ！サバイバル ワークショップ」協力

関係一覧



久富敏明（神戸芸術工科大学准教授、建築家）

日本大学理工学部建築学科卒業。早稲田大学大学院修士課程修了。Architekturburo Bolles-Wilson (Peter Wilson)、高松伸建築設計事務所に在籍。1992年久富敏明建築設計事務所設立。2007年神戸芸術工科大学准教授に就任。受賞に、1996年日本建築士会連合会設計競技「元気になる仮設生活空間」銅賞、SDレビュー2013入賞など。

- ・本展出展
- ・「レッツ！サバイバル ワークショップ」協力



Roo su flood

ルースーフラッド (Roosuflood) は、クリエイター、アニメーター、グラフィックデザイナーなど様々な経歴を持つメンバーが集まったボランティアグループ。2011年のタイの大洪水の際、情報が錯綜して混乱を極める中、データを収集し、洪水の状況、洪水への対処や安全な避難の仕方を伝える一連のアニメーションを制作。ルースーフラッドのシンボルであるクジラのアニメーションは、テレビやYouTubeで繰り返し流され、タイで大きな反響を呼んだ。主要メンバーであるタワッチャイ・セーンタムチャイクリンクライ・ワチラタムポン、ノッタポン・ブーンプラコップ、ワッタナー・ルジロサクンをはじめ、多くはコミュニケーションアート、美術、応用美術学部の出身である

- ・本展出展



榎橋 修（神戸大学准教授）

1968年富山県生まれ。1991年京都大学工学部建築学科卒業、98年東京大学大学院博士課程単位取得後退学。98年～2002年、東京大学生産技術研究所勤務。2002年ティーハウス建築設計事務所設立。2003年から2009年9月まで、東北工業大学工学部建築学科講師。2009年10月より神戸大学准教授。

- ・本展出展



一般社団法人アーキエイド

仙台をベースに活動していた建築家たちの呼びかけが発端となって2011年4月11日に立ち上がった復興支援ネットワーク。2011年9月に法人化し、世界各国からの寄附を受けるプラットフォームにもなっている。

- ・本展出展



アルマ・キント（アーティスト）

視覚芸術分野のアーティストであり、被災地の困難な状況にある人々を対象に、アートを通してヒーリングを行い、個人が主体的に立ち上がる力を促すアート教育者。2006年以降フィリピン全土、日本、韓国において、活動家、教育者、アーティスト、NGOと共に、被災地域でのワークショップのファシリテーションを行う。第8回ハバナ・ビエンナーレ2003(キューバ)、横浜トリエンナーレ2005、2012～13年には、福岡アジア美術館でのアジアの女性アーティスト展など3つの日本の美術展に参加。

- ・本展出展
- ・「アートによる心のケア “heARTS” (ヒアーツ) 担い手養成ワークショップ」講師
- ・「アートで親子コミュニケーション ワークショップ」講師

関係一覧



中田千彦（宮城大学准教授、建築家）

1990年東京藝術大学美術学部建築課卒業、93年コロンビア大学建築・都市・歴史保存大学院建築修士課程修了、東京藝術大学美術学部建築科助手、京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科助教授、コロンビア大学研究員、新建築社勤務などを経て、2006年から宮城大学事業構想学部デザイン情報学科准教授。

・本展出展



友廣裕一（一般社団法人つむぎや）

2008年に大学卒業後、全国70以上の農山漁村を訪ね、この時の経験を活かし、フリーランスで漁業後継者育成及び水産物直販に向けた仕組みづくりなどの企画を行う。2011年3月17日から避難所の状況把握を行うプロジェクトの現地マネージャーとして宮城県に入り、その後、仲間達と「一般社団法人つむぎや」を立ち上げ、手仕事を通じた役割づくり・コミュニティ再生の事業を実施。

・本展出展



高津玉枝（株式会社福市代表取締役）

1991年に雑貨を中心とした売り場をプロデュースする会社を設立し、百貨店や小売業、企業の業態開発などを行う。2006年にフェアトレードを中心とした事業を行う株式会社福市を設立。08年フェアトレードのセレクトショップ LOVE&SENSE を表参道ヒルズに立ち上げ、高島屋・伊勢丹・三越などの商業施設でイベント出店。12年阪急うめだ本店に LOVE & SENSE の常設店舗を構える。東日本大震災後に「EAST LOOP」を立ち上げる。

・本展出展

・「コミュニティ・アーキテクト イカブトラ」三夜連続レクチャー・二夜目 講師



岩切エミ（デザイナー）

スタイリストを経たのち、大手企業の商品開発に携わる。1996年にワンダフルカンパニーを設立し、独自のブランド car * g * mom を展開。欲しいものを楽しく作ることを第一に、機能性と遊び心のある作品で多くのファンを魅了している。

・本展出展



堀田祐介（foodscape!、料理研究家）

1977年、大阪府生まれ。「食べることは生きること 生きることは暮らすこと」をモットーに都市と地域の架け橋として、生産者と生活者を繋ぐ料理研究家。survival から entertainment まで、命と絆をつなぐ食のムーブメントを展開すると共に、風土と food を融合させた食のモザイクアート「foodscape!」を通して食べることへと人々を誘うノマド料理人。

・本展オープニングレセプションフード担当

関係一覧



ラッティゴーン・ウッティゴーン (Club Creative 代表、ゲームデザイナー)

工業デザインを学んだ後にゲームデザイナーとして活動。子どもたちは質の高いおもちゃにふれるべきだという強い思いを持つ。タイ、及び海外において、様々なパートナーと問題解決、例えば環境問題や社会、政治問題の解決を目指す教育ゲームの開発を行っている。

- ・「ゲームで社会課題に挑む -Save The World With GAME-」講師
- ・「遊びながら学ぶ」地震ゲームを作るデザインワークショップ」講師
- ・「防災ゲーム大会」協力



吉川肇子 (慶應義塾大学商学部教授)

1959年島根県生まれ。慶應義塾大学商学部教授。1988年京都大学大学院単位取得退学。博士(文学)。京都学園大学、筑波大学勤務を経て、現職。専門は、組織心理学・社会心理学。主な著書として、「防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション・クロスロードへの招待」(2005年、共著)、「クロスロード・ネクスト」(2009年、共著)、「リスク・コミュニケーション・トレーニング」(2012年、編著)(いずれもナカニシヤ出版)がある。近年の関心は、ゲーミング・シミュレーションの開発や教育。

- ・「遊びながら学ぶ」地震ゲームを作るデザインワークショップ」ゲスト



ウィパーウィー・クナーウィチャーノン (Design for Disasters 共同創設者)

国内の芸術学部で芸術教育を専攻した後、アメリカでインテリア建築の修士号を取得。帰国後、アジア工科大学院で防災管理を学ぶ。大学講師となり、タマサート大学建築計画学科では災害に備えた建築について教鞭をとる。2010年から Design for Disasters の活動を開始。

- ・「レッツ！サバイバルー「アイデアと工夫」というデザインで、生きる世界。」講師
- ・「レッツ！サバイバル ワークショップ」協力



永田 宏和 (デザイン・クリエイティブセンター神戸 副センター長)

1968年兵庫県生まれ。企画・プロデューサー。1993年大阪大学大学院修了後、大手建設会社勤務を経て、2001年「iop 都市文化創造研究所」を設立。2006年「NPO 法人プラス・アーツ」設立。2012年8月よりデザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) の副センター長を務める。主な企画・プロデュースの仕事に、「水都大阪 2009・水辺の文化座」、「イザ！カエルキャラバン！」(2005～)、「地震 EXPO」(2006)、KIITO オープニングイベント「ちびっこうべ」(2012) などがある。

- ・「コミュニティ・アーキテクト イカブトラ」三夜連続レクチャー・三夜目 講師



曾我部 昌史 (神奈川大学工学部建築学科教授、建築家)

1995年みかんぐみ共同設立。設計だけでなく、ワークショップの企画運営や評論の執筆、アートプロジェクトなど、多彩な活動を展開。主な作品に、「北京建外 SOHO 低層商業棟」(2003)、「2005年日本国際博覧会トヨタグループ館」(2005)、横浜市の京急高架下文化芸術活動スタジオ「黄金スタジオ」(2008)、「BankARTLife- 新・港村」(2011)の会場構成なども手掛ける。

- ・「コミュニティ・アーキテクト イカブトラ」三夜連続レクチャー・一夜目 講師

関係一覧



大木聖子（慶應義塾大学環境情報学部 (SFC) 准教授）

専門は地震学・災害情報・防災教育等。高校1年生の時に起こった阪神・淡路大震災を機に地震学を志す。2001年北海道大学理学部地球惑星科学科卒業、2006年東京大学大学院理学系研究科にて博士号を取得後、カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリプス海洋学研究所にて日本学術振興会海外特別研究員。2008年4月より東京大学地震研究所助教。2013年4月より現職。

主な著書に、『超巨大地震に迫るー日本列島で何が起きているのか』（額野一也教授との共著、NHK出版新書）、『地球の声に耳をすませて』（くもん出版）など。2012年9月『情熱大陸』。

・本展アドバイザーメンバー



岡本欣也（株式会社オカキン、コピーライター）

1969年生まれ。1994年岩崎俊一事務所入社。2010年オカキン設立。おもな仕事は、日本たばこ産業「大人たばこ養成講座」シリーズ、「あなたが気づけばマナーは変わる。」、グリコ「あ、大人になってる。」ホンダ「ハイブリッドカーは、エコで終わるな。」、キリンフリーの開発・ネーミングなど。日本郵政「年賀状は、贈り物だと思う。」やミツカン「やがて、いのちが変わるもの。」など岩崎俊一氏との共同作業も多数。

・本展アドバイザーメンバー

制作物

ポスター (B2、2種類)

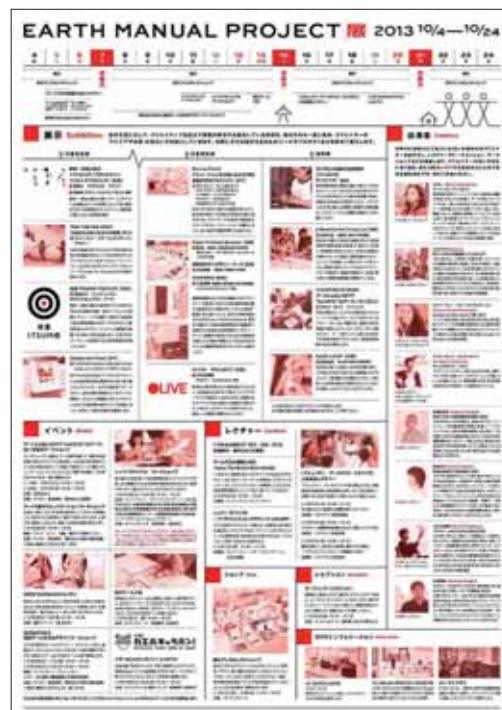


開催リーフレット (B3、4つ折り)

<外面>



<中面>



制作物

マニュアル冊子表紙 (B5 特寸 270 × 200mm)



缶バッチ (φ =76mm、3 種類)



掲載実績

<新聞>

2013年 10月3日	毎日新聞（夕刊）
10月3日	神戸新聞（朝刊）
10月7日	神戸新聞（朝刊）

<テレビ・ラジオ>

2013年 10月4日	サンテレビ「NEWS PORT」
10月5日	NHK 神戸放送局 夕方のニュース番組
10月10日	関西ラジオ「時間ですよ！林編集長」
10月17日	NHK 神戸放送局「ニュース神戸発」

<雑誌・情報誌>

2013年 8月号	KOBE 観光の日リーフレット
9月号	KOBE C 情報
9月臨時号	KOBE C 情報アートウォーク
9月号	S M I L E（神鋼不動産広報誌）
9月末	「KOBE デザインの日」記念イベント合同冊子
10月号	神戸市広報誌「KOBE」
10月15日	美術手帖 994号
12月25日	女たちの21世紀 ※アルマ・キント氏作品

<ウェブ>

2013年 7月7日	神戸新聞 NEXT
9月13日	無印良品ウェブサイト
10月2日	Women's action network
10月10日	表象／アート／ジェンダー研究
10月10日	greenz.jp
10月12日	日刊SPA!
10月14日	greenz.jp
11月6日	Bangkok post Lifestyle[タイ] ※「世界の TAKIDASHI」

掲載実績

※一部抜粋



神戸新聞 (2013.10.03)



神戸新聞 (2013.10.07)



無印良品ウェブサイト (2013.09.13)



Bangkok post Lifestyle [タイ] (2013.11.06)